

会員の広場



## “たいし塾”の歩みと今後の展開

四天王寺大学エクステンションセンター長・四天王寺大学教授

大関 雅弘

平成3年、文部省（現文部科学省）は、大学設置基準の『大綱化』の一環として、新たな理念である「開かれた大学・短期大学づくり」を盛り込み、高等教育機関による「地域社会への貢献」を推進し、多様な学習機会の提供を求めました。このことは、地域社会における生涯学習の振興、社会人の自己啓発、キャリア開発に資する教育・研究の展開を意味しており、これを受けて、本学では、平成9年に生涯教育機関として「IBU（International Buddhist University）エクステンションセンター」が発足し、公開講座、シンポジウム、地域社会との交流事業などの活動が開始されました。

そのなかの具体的な取り組みの一つとして、平成12年に新企画である特別公開講座“たいし塾”が誕生しました。“たいし塾”は、社会人や学生を対象にして、民間のカルチャー組織（毎日文化センター）との提携によって、サテライト形式で公開講座を行うものです。当時の講座案内には、次のように趣旨が述べられています。「建学の祖『聖徳太子』と受講者の方々の『大いなる志』がかなうようにと願いを込めたネーミングの『たいし塾』は、学内の知的資源や教育情報・サービスを広く社会に開放し、現代社会において『心のオアシス』となることをはじめ、『将来設計』に役立つ生涯学習の場を創ることを目的にしています」。



▲ “たいし塾”風景（毎日セミナー）



▲ “たいし塾”風景（藤井寺キャンパス）

この趣旨をより理解してもらうために、本学の「建学の精神」について触れておきます。本学は、推古元年（593 年）、聖徳太子が難波の地に四天王寺を創建され、四箇院制度（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられたことに遡ります。

とりわけ、敬田院設立の精神、すなわち「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提処」（真理・真実を敬い、悪行を止め善行を修め、速やかにこの上ない真理探究に至らせる所）が、本学の「建学の精神」となっています。ここにみられる学究と心の修練を体得した人格を形成し、それをもって有為な人材を育成するという教育理念は、多様な教育機会に接することにより、老若男女誰もが学べるようにという今日の生涯学習の基本理念にも通じるのではないのでしょうか。

さて、“たいし塾”は当初、年 3 期制（平成 18 年度からは年 2 期制）で 1 期 12 回、講義時間 90 分。受講料は、1 期 20,000 円（希望講座だけの場合には 1 回 2,000 円）。場所は、大阪北区にある毎日文化センターで、毎週木曜日 18:30~20:00 に行われました。第 1 回講座のテーマは、「心の時代をどう捉えるか」。多彩な分野の教授陣 12 名がそれぞれの視点からこのテーマを論じました。受講者は延べで 219 人でした。参考のために、平成 12 年度から平成 22 年度までのテーマと受講者数(延べ人数)を表にしたものを本稿の末尾に掲載します。

表を見ていただくと分かるように、テーマによって受講者数はかなり変化します。とくに仏教にかかわるテーマには人気があり、60 代を中心にした年齢層の受講者が多いことと大きく関係がありそうです。受講者がいま求めているものは何か、これに的確に応えていくことができるのか、この点が課題になります。

最後に現在の状況と今後の展開について、若干述べることにします。

本学のエクステンションセンターの人員は、教員 1 名、事務職員 5 名、非常勤職員など 4 名から構成されています。

センターの活動内容は、主に次の 5 つの分野からなります。

1. 学生のためのキャリアプログラムのサポート（各種資格・検定試験と対策講座の実施）
2. “たいし塾”をはじめとする各種公開講座と地域との連携による催し物  
（IBU桜WEEKS、生涯学習フェスタなど）
3. オープンカレッジの実施
4. 教員免許状更新講習
5. 高大連携事業

平成 21 年春に、かつての近鉄バファローズのホームグラウンドであった藤井寺球場の跡地に、四天王寺学園小学校との併設で藤井寺駅前キャンパスが完成し、エクステンションセンターのもう一つの拠点ができ上がりました。大学のある羽曳野キャンパスは自然環境に恵まれています。こちらの駅前キャンパスは交通の便がとてもよく、近鉄藤井寺駅から

歩いて 5 分の距離にあります。この立地条件を活かして、オープンカレッジの規模を大幅に拡大しました。今年は、前期、後期とも 130 講座ほど開設します。

また今年から、“たいし塾”を駅前キャンパスで開くようになりました。これも大阪の南河内一帯を視野に入れて、地域との連携を目指したエクステンションセンターの活動を展開するためです。現在、「“日本的なるもの”の形成—日本文化の原点を探る—」というテーマで講座が進んでいます。曜日と時間も土曜日 11:00~12:30 となり、地域の皆さんにとって“たいし塾”がより身近なものになることが期待されています。

本学の学生数は、大学と短大を合わせて約 3,900 人です。しかし、本学の建学の精神を踏まえて、“たいし塾”に込められた生涯教育の理念を日々実践することにより、小規模のエクステンションセンターながらも、生き生きした活動を続けていきたいと考えています。全日本大学開放推進機構には、今後とも温かいご指導とご配慮をいただければ幸いです。

---

## 大関 雅弘 (おおぜき・まさひろ)

1954 年北海道札幌市生まれ。1985 年東北大学文学研究科博士後期課程社会学専攻単位取得退学。1987 年四天王寺国際仏教大学（現四天王寺大学）講師、1997 年同大学人文社会学部社会学科教授。2008 年エクステンションセンター長に就任、現在に至る。全日本大学開放推進機構法人会員。

## “たいし塾” テーマと受講者数一覧

年度別・統一テーマ	開催日	テーマ	受講者数
平成12年度 ビジネス社会への提言	第1期 全12回 4月6日～6月29日	心の時代をどう捉えるか	219人
	第2期 全12回 10月5日～12月28日	社会人のための法律講座	137人
	第3期 全12回 1月11日～3月29日	現代社会と福祉の心	79人
平成13年度 新世紀！その黎明と 精神(こころ)を求めて	第1期 全12回 4月5日～6月28日	人間と教養	83人
	第2期 全12回 9月27日～12月20日	現代社会と法律 -ビジネス実務法務に対応-	113人
	第3期 全12回 1月10日～3月28日	教育が培う健やかな心と身体	109人
平成14年度 新時代の “共生・共存・共栄”を探る！	第1期 全12回 4月4日～6月27日	国際理解とエアスタディ	84人
	第2期 全12回 9月26日～12月19日	暮らしと職場の法律入門 -ビジネス実務法務に対応-	64人
	第3期 全12回 1月9日～3月27日	“共生”の時代を生きる	87人
平成15年度 こころを培う学びの創造	第1期 全12回 4月17日～7月10日	日本の精神文化を学ぶ	185人
	第2期 全12回 9月25日～12月18日	祖師に学ぶ日本仏教のこころ	338人
	第3期 全12回 1月8日～3月25日	臨床心理学 -人の心はどこまで分かるの？-	515人
平成16年度 こころを培う学びの創造	第1期 全12回 4月8日～7月1日	今ぞ知る、聖徳太子の真の姿 -そのご遺業をたずねて-	237人
	第2期 全12回 9月30日～12月16日	複眼で読み解くアラブ・イスラム世界	275人
	第3期 全12回 1月6日～3月24日	「いのち」を考える -生きるとは-	178人
平成17年度 こころを培う学びの創造	第1期 全12回 4月14日～7月7日	「こころの健康」は「身体の健康」から	162人
	第2期 全12回 9月22日～12月15日	日本仏教に学ぶ -親鸞・道元からビハーラまで-	351人
	第3期 全12回 1月12日～3月30日	アジア諸国の社会事情について	219人
平成18年度 複眼で読み解く日本 -新しい価値の創造へ-	第1期 全12回 4月13日～7月6日	仏教と文学からみた日本の歴史	216人
	第2期 全12回 9月21日～12月14日	仏教と文学からみた日本の歴史-後編-	118人
平成19年度 自分を磨き こころを育む -21世紀に生きる-	第1期 全12回 4月12日～7月5日	現代社会における仏教精神とは	410人
	第2期 全12回 9月20日～12月13日	心の安らぎを求めて 仏教の源から現代までを訪ねる	453人
平成20年度 未来に尽くす -21世紀に生きる-	第1期 全12回 4月10日～7月3日	日本と中国・イスラームと -受容と展開、過去から未来へ-	248人
	第2期 全12回 9月18日～12月11日	聖徳太子の教えと現代	265人
平成21年度 未来に尽くす -我々が歩むべき道-	第1期 全12回 4月9日～7月2日	現代日本のモラルのあり方を問う	124人
	第2期 全12回 9月17日～12月10日	仏教が歩んできた道	312人
平成22年度 かけがえのない今を生きる -時代と人間を見つめて-	第1期 全12回 4月8日～7月1日	異文化との対話から学ぶ	98人
	第2期 全12回 9月16日～12月9日	般若心経を読み解く	521人